



自由と規律のバランスが良く

全力でやりたいことが

できた6年間

城北中学校・高等学校は「人間形成と大学進学」を教育目標とし、広い視野、判断力、問題解決力などを兼ね備えた魅力あふれる人間育成に取り組む男子校で、毎年多くの卒業生が医学部に合格する進学校だ。順天堂大学医学部で学びを深めながらマジンヤンとしても活躍する山里レオさんが母校を訪ね、かつて担任でもあった校長の小俣力先生と語り合った。



自分の将来を考える会(講演会/中3・高1対象)

「医師として人の役に立ちたい」
高1で将来の夢が明確に

城北中学校・高等学校
校長 小俣 力 先生

順天堂大学医学部医学科6年生
山里 レオ さん

小俣 山里くんは本校が第一志望でしたか。
山里 はい。初めて学校を訪れたときに、「空気が心地良い。自分に合っている」と直感しました。でも、実は2月1日の入試では不合格になってしまい、2日目でも合格しませんでした。実際に入学してみると、「束縛し過ぎず、放置し過ぎない」「自由と規律のバランスが良い学校」だと思いました。やる気のある生徒にはとてもいいねに指導してくれて、勉強以外のやりたいことも応援してくれる。好きなことに全力で取り組めるのが城北の魅力です。私は今、大学生活を送るかわら、プロのマジンヤンとしても活動しています。

小俣 医学部に進学することはいつごろ、どのように決めましたか。
山里 最初に医学部を意識したのは高1で、「人の役に立つ仕事がしたい」と思ったのがきっかけです。といっても、私は勉強が苦手で、中1時の成績はクラスで最下位でした。その後、成績は上がりましたが、高1で平均をようやく超える程度。恥ずかしくて「医学部志望」となかなか周囲に言えませんでした。そんなとき、キャリア教育の一環として、卒業生や生徒の保護者からさまざまな仕事の話や、校内イベントに参加して、現役のドクターと直接語り合ったことで医学部を目指す決意が固まりました。

小俣 自分に合った勉強法を見いだしたのはすばらしいですね。そんな時間を過ごした城北は、山里くんにとってどんな存在でしたか。
山里 やりたいことを応援してくれる場所です。もし他校に進んでいたら、こんなにやりたいことを自由にできなかったのではないかなと思っています。
小俣 卒業生に同じ質問をしても「自由」「めりはり」「チャンスをつかめる」といったキーワードがたくさん出てきます。やはりそれが城北の校風ですね。最後にこれから目標を聞かせてください。
山里 卒業後は医師として、できれば臨床と研究を両立したいと思っています。そして、まだ治療法が確立されていない難病を治したい。とても大きな夢ですが、ぜひ叶えたいと思っています。

基礎の反復学習で
医学部受験へラストスパート

小俣 中3〜高1で将来を意識し、大学受験へのモチベーションを高めることを狙って企画しているイベントなので、そう言ってもらえると嬉しいですね。その後、どのように勉強しましたか。
山里 先生方のアドバイスを受けながら、とにかく基礎をやり直しました。どんな教科でも、基礎から応用へとピラミッド型に知識を積み上げないと実力がつきません。なかでも大切なのはピラミッドの土台に当たる「基礎知識」だと気づき、ひたすら反復学習に取り組みました。おかげで、高3で急に偏差値が上がりました。